

## 建学の精神

城西国際大学は1992年に千葉県東部九十九里浜にほど近い東金市にメインキャンパスを構えスタートしました。爾来、南房総鴨川市の安房キャンパス、東京都心に位置する東京紀尾井町キャンパスを開設し、多くの国々からの留学生も含め約6千名もの学生を擁した8学部10学科、6研究科からなる総合大学へと成長しました。学生たちは、それぞれのキャンパスで国際化の現状や将来について学び、同時に、地域の課題解決に資する地域連携の重要性なども学んできました。また、数多くの学生たちを海外提携機関に送り出すとともに、留学生を招き入れ、双方向の国際交流と国際教育を担う文字通り国際大学として発展してきました。

創立者である水田三喜男は、1960年代の日本の高度経済成長を担う政治家として活躍しましたが、その後の日本を形づくるために人創りの重要性を説き、「学問による人間形成」を建学の精神として学校法人城西大学を発足させました。その後の国際化の流れに先立ち、海外の大学との協定をいち早く締結し、城西国際大学の開設に至りました。開設時に提唱した「国際社会に生きる人間としての人格形成」は、教育理念として今も継承しています。

平成時代も30年が経ち、国際化と科学技術・情報の進展は、世界各地の距離を急速に縮め、交流速度を著しく速めています。また世界一のスピードで進展する少子高齢化のみならず人口減少社会へと転じた我が国は、社会保障制度や地域社会の在り方に新たな枠組みの提唱が必要とされる時代へと移り変わってきました。

城西国際大学では、このような時代に生きる様々な文化・背景を有する人々が行き交う多文化共生社会の中で、高い倫理観のもと、多様な時代に即した知的で刺激的な学びを提供し、文化を継承・創造し多様性を理解して地域や世界で活躍できる人材、およびそれぞれの専門能力をもって関連領域と連携できる職業人を育成します。本学に集う若者たちが、キャンパスで過ごす時間を大切にして、多くの経験を重ね、共に力を合わせて、新しい時代を逞しく生き抜く人材へと成長することを心から期待しています。

学長 杉林堅次